

長崎市内の漬物桶から発生したハエ類について*

長崎大学風土病研究所衛生動物学研究室 (主任: 大森南三郎教授)

末 永 斂
すえ なが おさむ

長崎市中央保健所 (所長: 大利茂久博士)

大 利 茂 久 ・ 下 釜 勝 ・ 高 月 嘉 行
おお り しげ ひさ しも がま まさる たか つき よし ゆき

On the Flies Breeding out from Steepers Containing Spoiled Rice-Bran, Rotten Vegetable, or Wastes of Mellon in Pickle Shops at Nagasaki City. Osamu SUENAGA. Department of Medical Zoology, Research Institute of Endemics, Nagasaki University (Director: Prof. N. OMORI). Shigehisa ORI, Masaru SHIMOGAMA and Yoshiyuki TAKATSUKI. Nagasaki City Health Center (Head: Dr. S. ORI).

緒 言

吾々は1960年の6月と7月に、たまたま長崎市内のほぼ中心部にある2軒の漬物製造兼販売店に放置されていた漬物桶にハエ幼虫の発生を認め、それを成虫に羽化させて興味ある知見を得たのでその結果を報告する。本報告を出すに当り、研究の指導と原稿の校閲を賜った恩師大森南三郎教授に心から謝意を表す。

調 査 方 法

今回、ハエ幼虫の発生を認めた漬物製造兼販売店に於てはその製造及び販売の過程で、不用になったもの、或は又、悪質になって販売価値がなくなったものが相当量、可成りの期間にわたって放置される場合が起り得る。第1表に示したM店に於ては6月6日に、漬物を製造するコンクリート床に無蓋のまま放置されていた2個の4斗桶にハエ幼虫の発生を認めたので、6月8日にこの2個の桶に羽化したハエ成虫が悉く回収できる布製のトラップを設置し、以後毎日トラップを取り換えて羽化状況を調べ、羽化がみられなくなるまで続けた。他のA店の場合には7月27日に、M店とはほぼ同様な場所に同様な状態で放置されていた2個の4斗桶にハエ幼虫の発生を認めたので、この桶を直ちに保健所に持ち帰り衛生害虫研究室内で前者と同じ方法で羽化してくるハエ類を調べた。尚、これら両漬物店

の何れに於ても当時部分的に販売中の桶や漬けたまま保存されていた桶、即ち新製品の入っていた桶にはハエ幼虫の発生は認められなかった。

調 査 成 績

漬物の種類、羽化したハエの種類と数、羽化期間及び内容物の量等は第1表に示す通りである。この表に示すヌカ粕はヌカ漬されていた漬物が売られて、余分になったヌカを別の4斗桶に集めていたもので、調査時には8分目程度にたまってその上層部はやや乾燥し暗褐色を呈しており、このヌカ粕の表面から約10cmの深さまでに多数のヒメイエバエの幼虫と若干の蛹を認めた。この桶から羽化したハエ類は2種463個体で、この中462個体(99.8%)がヒメイエバエであって本種が殆んど単独的に発生していたものと考えられる。

タカナ漬Iはタカナを塩漬したもので、一部売られた残りが4斗桶に7分目程度に入ったまま放置されていたものである。この桶の上層部は腐敗して粘泥状になっていたが、底の方にはまだ食べられそうなものも入っていた。この腐敗した表面から約20cmの深さまでに多数のオオイエバエの幼虫と蛹及び可成りのヒメイエバエの幼虫を認めたが、この桶からはオオイエバエ1615個体(85.1%)とヒメイエバエ283個体(14.9%)が羽化してきた。

*長崎大学風土病研究所業績 第393号
長崎大学医学部医動物学教室業績 第101号

コウカアブ等の好適なしかも重要な発生源になり得ることがわかった。

これらの発生源からハエ類を発生させないためには、漬物桶をビニール等で被覆してハエが産卵のために侵入するのを防ぐことが必要である。ところがこのような発生防止対策を実施しても、結局は腐敗物或は不用物の処理が問題になってくる。漬物が小規模に取り扱われる店や各家庭では殺虫剤を散布してから穴に埋める方法等が考えられるが、今回の例のように市内で大規模に取り扱われる場合には色々困難な問題が起り得る。その処理方法の一つとして海洋投棄が最も望ましいように思われる。

摘 要

1960年の6月と7月に長崎市内の2軒の漬物製造兼販売店に放置されていた不良ヌカ粕の投入桶、不良化したタカナの塩漬の入った桶及びタカナ漬の不良品を投入した桶、更にウリの臍物を投入していた桶等にハエ幼虫の発生を認め、それを成虫に羽化させてこれらから発生するハエ類を調査した。

発生するハエ類の種類と数は内容物の種類及び状態によって異なるが、これらの不用品がヒメイエバエ、オオイエバエ、イエバエ及びセンチニクバエ等の重要な発生源となることは注意すべきことである。

参 考 文 献

- 1) 加納六郎：日本のハエ。初版，DDT協会，東京，1954.
- 2) 小林晴次郎：寄生虫と衛生昆虫。初版，白井書房，京都，1949.
- 3) 宮城県衛生部：松島宮戸村（宮戸嶋）に於ける蠅の調査報告（その1）。蠅類幼虫の発生源の実態調

査とその考察。宮戸村総合保健計画一衛生害虫，1954.

4) 緒方一喜，鈴木猛，長田泰博，平社俊之助：ヒメイエバエ *Fannia canicularis* L. の発生源に関する知見。衛生動物，8（4）：198~205，1957.

5) 鈴木猛，緒方一喜：ハエ駆除の技術。初版，日本厚生通信社，東京，1958.

Summary

Fly maggots were found breeding out in pickle tubs in two pickle shops inspected by chance in June and July, 1960 in Nagasaki City. The maggots were reared to classify as adults.

A number of *Fannia canicularis* and a few of *Helomyza modesta* were obtained in a tub in which the spoiled salt rice-bran paste was being collected. A number of *F. canicularis* and a great number of *Muscina stabulans* were found in a neglected tub with spoiled salted vegetable. A small number of *F. canicularis* and *M. stabulans*, a fair number of *Musca domestica vicina* and a considerable number of *Ptecticus tenebrifer* were found in a tub keeping spoiled salted vegetable. A number of the housefly and nine other fly species (Table 1) were found in a tub keeping entrails of the melon.

It is noteworthy facts that the refuse or spoiled matters in making pickles are utilized as breeding sources of *F. canicularis*, *M. stabulans*, *M. d. vicina* and many other flies.